

大分大学教職大学院

教職大学院2年間の学修の総まとめとしての教育実践研究フォーラム

(パネルディスカッション：「多様化する社会にあって求められる学校教育の在り方について」)

フォーラムの目的：

教職大学院における2年間の学修・研究の成果を、関係者等に発表し共有することで、広く大分県の学校に波及効果をもたらす、学校改善につなげる。また、この過程の中で紡ぎ出された課題について協議する場を設けることにより、教職大学院の使命や存在意義を問い直す。

フォーラムの内容：

第1部教育実践研究報告会と第2部パネルディスカッションからなる。今回は「多様化する社会と学校」を軸として、学修・研究の実践的意義を共有する構成とした。第1部と第2部は不可分の関係にあり、それを覚醒させる営みこそが教職大学院の使命であることを進行の中で随時確認した。

日程・参加者等：

参加者の対面交流を重視し、対面のみの開催方式をとった。令和7年2月21日(金)12:50～17:00に実施した。参加者は87名、教職大学院の関係者を除くと、教育委員会関係14名、学校関係17名、同窓会3名の参加であった。

成果と課題：

平日午後の開催であったが、多数の関係者の参加があった。第1部の報告会は若干窮屈な設定であり、ゆとりをもった交流への要望があった。パネルディスカッションは、パネリストの熱い語りが印象に残った。フロアからも意見が出され、壇上だけの遣り取りに終始せず、活気溢れたものとなった。



第1部教育実践研究報告会の様子(左)。現職院生が実践研究の成果を発表し、学校長や指導主事等が聞き入っている。現職院生のアクション・リサーチの質の高さから深い質問が誘発され、もっと多くの議論の時間が欲しいとの要望が寄せられた。



第2部パネルディスカッションの様子(上)。大分県教育委員会からは令和8年度開設の県立夜間中学校について、玖珠町教育委員会からは令和6年度設置の町立くす若草小中学校(学びの多様化学校)の成果と課題について、それぞれ報告があった。これらの学校が特別な児童生徒が通う場所という意識から、社会的包摂を目指す学校の新しい姿という認識へと変化して欲しいという強い思いが語られた(下)。



アンケートでは、第1部も第2部も興味深く聞き入っていただけたことが伝わってきた。次年度の第2部への期待を聞くと、「このテーマでパート2」、「子どもを取り巻く環境変化(貧困・不登校・ヤングケアラー・学習支援)」、「イエナ・プラン」などがあげられた。